平成３０年３月

「こおりやまの米」通信

編集：郡山市
JA福島さくら郡山地区本部（TEL. 921-0533）
NOSAI福島郡山田村支所（TEL. 933-3307）
県中農林事務所農業振興普及部（TEL. 935-1310）

郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

発行:郡山市農作物生産対策協議会（郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761）

Vol. 1　播種準備編（播種の準備～育苗）

＊過去の記事は郡山市ホームページから見ることが出来ます。　こおりやまの米通信　検索

今年もおいしい郡山のお米を届けられるようにがんばりましょう！

1 床土の準備

培土の放射性セシウム暫定許容値は400Bq/kgです。山土等を利用し培土を自作する際は必ず検査を行ってください！

健苗生産のため下記の条件を目標に調整しましょう！

①pHは4.5～5.5の弱酸性
　→高すぎても低すぎても病気の原因となります
②排水性・保水性を両立し、通気性を良く
　→ピートモスや籾殻燻炭などで改善できます
③細かい粒子は少なめに
　→篩掛けを丁寧に行いましょう

山土を利用した自作培土
1箱当たりの施肥量の目安

肥 料	硫 安	過 石	塩化カリ
施肥量	10g	15g	3g

※単肥施用の場合、pHが0.5程度下がるので注意しましょう。

2 播種の準備

1 わら、籾殻の除去

いもち病菌はわら、籾殻に潜んで越冬します。播種作業を行う前に、作業場や育苗ハウス内の清掃を行い、いもち病の感染を防止しましょう。

2 塩水選（比重選）

塩水選を行うことで、出芽後の苗立ちを揃えることができます。

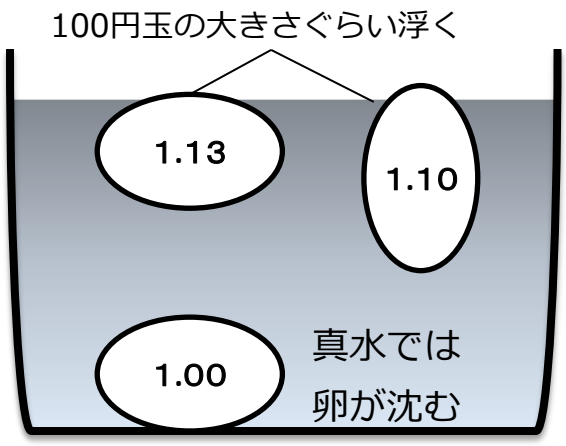
特に未消毒種子の場合、いもち病やばか苗病に感染していない健全な種子を選ぶためにも、塩水選を必ず行いましょう。塩水選後は軽く水洗いして塩分を取り除きます。

塩水の作り方[水10㍑当たり]

種 類	比重	食塩(kg)	硫安(kg)
うるち	1.13	2.1	2.7
も　ち	1.10	1.6	2.0

※99%食塩、21%硫安の場合
※水温によって変動するため、比重計で測るのが原則です。

新鮮な生卵による簡易比重測定



3 浸 種

～十分な「吸水」と「酸素」が健苗のポイント～

1 浸種水温は12～15℃を目安とします。10℃以下での浸種は発芽不揃いの原因です！
　浸種期間は積算水温（平均水温×日数）で100℃が目安です。（例：水温が15℃なら7日）

2 種もみ袋に詰める種子は、余裕をもって八分目以下にします。ぎっしり詰めると中心の種籾が酸素不足となり、発芽が不揃いとなります。

3 浸種によって種籾が吸水することで、種子消毒の薬剤の効力が発揮されますので、浸種開始から2～3日間は水を交換しないようにします。
　その後は酸素供給のため1～2日の間隔で水を交換しましょう。

河川やため池で消毒種子を浸種すると、消毒の効果がなくなるだけでなく、発芽の不揃い、環境の汚染にもつながりますので絶対に止めましょう！

塩化カリは必ず散布！！

水稲生産者には3月末までに塩化カリが配布されます。
放射性セシウム吸収抑制のため、必ず基肥時に散布(20kg/10a)してください。

4 播　種　～適正な播種量で健苗を確保しましょう～

1 播種準備

播種前に空の育苗箱を使って播種量や箱施用剤の落下量を調整しましょう。播きムラがあると移植時の欠株の原因となります。

2 播種量と育苗日数の目安

適正な播種量とすることで茎や根が太くなり、活着と初期生育が良くなります。育苗日数が伸び老化苗となった場合は、窒素成分で育苗箱一箱あたり1g程度の施肥をすると活着が良くなります。

3 薬剤防除

販売されている培土は焼土殺菌されていますが、播種後の立枯病菌及び細菌の侵入に対しては薬剤を使用し予防する必要があります。

苗立枯病（カビ類）、細菌病の予防のために、下表を参考に予防してください。

表　乾籾重と催芽籾重

乾籾(ｇ)		催芽籾(ｇ)
80	→	100
100	→	125
120	→	150
200	→	250

※催芽籾135gで容積約180㎤（およそ一合）

表　苗の種類

苗 種	播種量（乾もみ重/箱）	育苗日数	葉齢
稚 苗	200g	20～25日	2.0～2.9
中 苗	100g	30～35日	3.0～3.9

「細菌病」が発生すると苗を処分するしか対策がありません。
しっかりと予防しておきましょう！

表　育苗期の主要な病気と対応する農薬例

	病名 病原菌	症　状	発生条件	ダコニール1000	タチガレエースM液剤	カスミン粒剤	テクリードCフロアブル*1
細菌	もみ枯細菌病	坪状に枯れあがり、心葉が容易に抜ける	高温多湿 高pH(6.0以上)			○	○
細菌	苗立枯細菌病	坪状に枯れあがり、基部が白化する	高温 苗の生育不順			○	○
苗立枯病	リゾープス	白いカビ	高温多湿 窒素の多・厚まき	○			○
苗立枯病	フザリウム	白～ピンクのカビ	低温過湿 高pH(5.0以上)		○		
苗立枯病	ピシウム	ドーナツ状に枯れる カビは見えない	低温過湿 高pH(5.5以上)		○		
苗立枯病	トリコデルマ	白～青緑のカビ	高温多湿 低pH(4.0以下)				○

※1　テクリードCフロアブルは種子消毒剤

5 育　苗　～苗半作です！良い稲づくりのスタートを！～

苗が緑色を帯びるまで

苗に急に強い光を当てると白化苗となります。緑色になるまでは強い光を避けましょう。

1．5葉期から

苗が緑色になったら、十分光に当てます。

温度は昼20℃、夜10～15℃を目安とし、徐々に自然環境に順応させます。

温度管理

ハウスやトンネル内の温度計は苗の高さに設置し、苗箱付近の温度を確認しましょう。

晴天時のハウス内温度は、朝は急に上がり、夜は急に下がります。ビニールの開閉は1時間ほど早めに行いましょう。

かん水

１日１回、朝にたっぷりとかん水し、乾いた場合には、昼頃に追加かん水します。夕方のかん水は、地温を下げ根張りを悪くするので控えてください。

プール育苗での注意点

プール育苗は通常の育苗と比べてかん水や温度管理が容易になり、根張りも良好な苗が得られます。下記の点に注意しながら取り組みましょう。

○1葉期までは通常管理をします。水を入れる前はハウスが高温になりやすいので、温度管理に気をつけましょう。

○1～1．5葉になったら水を溜め、昼夜ともハウスサイドを開放します。プールへの貯水が早すぎると、湿害が生じる場合があります。

○ハウス内温度は低めに管理し、苗が伸びすぎないようにしましょう。